

B 個別学習 (B 1)

主な学習活動

生活に必要な住まいの空間を知り、部屋の配置を考え、間取りを完成させる。

1 本時のねらい

3人家族（両親＋子ども）の住む家の間取りを考えることができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

マイホームクラウド(Webcad)

ファイル共有

3 参考にしてほしいポイント

Webcadを使うことで、シミュレーションをしながら生活に必要な住まいの空間や部屋の配置を考えることができる。

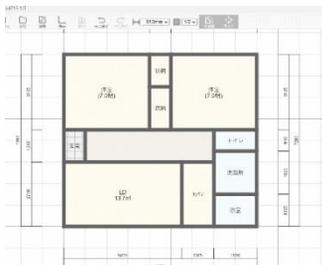
段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	Webcadを使って、住空間の配置を工夫する。	シミュレーションをしながら、想定した家族の生活に必要な空間を学び、動線やプライバシーを考えながら間取りを完成させることができる。 間取りが完成した生徒は、窓や家具の設置や3D化をして、より具体的な家のイメージをもつことができる。

ステップ1**ステップ2****提出**

タブレット

+

電子黒板

**4 活用効果**

ノートに記入するよりもはるかに速く住空間の配置ができる。イメージしながら配置することで、動線やプライバシーを考えながら活動を進められる。まずステップ1を目標とし、ステップ1を終えた生徒はステップ2に進むようにすることで、個々の進度に応じて学習を進められることができ、全生徒が意欲的に学習に取り組めた。シミュレーションの中で、大きさや配置を簡単に変更することもでき、短時間で効果的な学習ができた。

5 アドバイザーからのコメント

家の間取りを設計する場合、初めから詳細に設計することはできません。概略的な間取りから出発しますが、頭の中のイメージなので、試行錯誤しなければなりません。シミュレーションによって問題点や改善点を発見できますが、それは生徒と画面との対話であると言えます。（東京工業大学 赤堀侃司）

シミュレーションはICT活用のメリットの一つであり、本実践は生徒の考えを素早く形にしていく場面において効果的に利用されていると言えます。作成内容を協働的な場面でより深く検討していくと、より多彩なアイデアを生み出すことにつながられる可能性が高まりそうです。（福島大学 平中宏典）